

人と関わって生きていくことを大切にしたいから



長谷川圭子さん(宮内)
第1回「若妻の翼」の参加者「いいたてWING19」の一員。それぞれの人生を、飾らない言葉でつづった「いいたてWING19」2冊目の書籍「飯館の女性たち」は、この9月に発刊されました。

「いいたてWING19」で取り組んだ最初の本作りは、若かったから勢いがあったの。若妻の翼から27年。今は年齢も状況も違う。果たして自分にどれだけできるかと、大きな不安の中で今回の本作りに参加しました。編集には菅野クニさん(宮内)が大きな力を発揮してくれました。メンバーの一人が亡くなり、「いつか」ではなく「今」の思いを形にしようと、作られた本です。「私たちの話に価値があるのかな」という仲間の声もありましたが、少しでも誰かの役に立てれば、それでいいのではという気持ちです。生い立ちなどを残すことは、正直とても恥ずかしい。つづられているのは、小さな私たちが小さな目標をもって、それぞれに重ねてきた日常なんです。人は孤独だからこそ、関わって生きていくことに大切さがある。それを読んだ人にも感じてもらえたらー。私は、等身大の仲間一人ひとりを心から愛おしく思いました。そして、過去があって、震災もあって、今自分がこうして「いる」ことの意味を改めて感じました。人って変わる。あの時こうだったねと話せる時が、誰にでもきつと来るんだと思います。



村制60周年記念の切手シートと、10年後への手紙オリジナルレターセット

オリジナルレターセットは、村役場本庁・支所次第最終配布中(なくなり次第終了)。手紙のご応募は、お手持ちのびんせん・封筒でもOKです。

82円切手10枚で1シート(820円)

大切な誰かの10年後の未来へ

届けます。素直な気持ちを、手紙に託して、伝えてみませんか。

人が集う機会が多くなる年末年始。ゆく年を見送りながら、今までのこと、これからすることを考える時間もあるかもしれません。行き合う人とあれこれゆっくり話せるといいですね。

村は現在、村制施行60周年にちなんで、新たに「10年後への手紙」を募集しています。村の人はもちろん、村外の人でも応募できます。封書に切手を貼り、村役場本庁・飯野支所・交流センターに設置している専用ポストへ投函してください。締切は平成29年1月31日です。お預かりした手紙は厳重に保管し、大切な誰かの10年後へ、今の思いを届けます。素直な気持ちを、手紙に託して、伝えてみませんか。

手紙を募集しています

10年後への手紙をあなたも書いてみませんか

「伝えたい」
思いを紹介しします

この秋 出会った
できごとから



塩沢進さん(福島市)

いっそうの復興を願っています

避難者と地域住民の融和を図る福島市の「笑顔つなぐまち交流事業」で、11月15日、松川地区に避難する村民が、地域の皆さんと共に村内を訪れました(関連記事P21)。バスから降りた村の皆さんは、「車内も打ち解けて和気あいあい」「敬老会や夕涼み会など、5年も6年もお世話になって、今日はしみじみありがたうと言いたい」と話していました。一方、福島市民の塩沢進さん(写真左)は、村民である友人と、かつて「あいの沢」でバーベキューを楽しんだことなどを懐かしそうに話してくれました。交流センターでは「ステージやホールの造りに、村らしい発想を感じたよ」と塩沢さん。「村の人の笑顔も復活してきていると思え、力強い復興を感じることができた。戻る人の力でいっそう復興が進むことを願っています」。

逆の立場だったら できただろうか

11月14日から17日の3泊4日、60歳以上の村民31人が、岐阜県白川村を訪れました。毎年、行政区を数区ずつ区切って招待をいただき、今回で全20行政区が招待を受けたことから、この訪問が最終です。長期にわたる心尽くしのご支援をいただきました。「逆の立場だったら、こんな風にできただろうか」。ある人の言葉です。「ずっと忘れません。いつか私も、きつと誰かに」。



平成26年の招待のひとつ

一行は山津見神社なども訪れました。ふるさとを語る村の人の笑顔が印象的でした



上手じゃなくていい 自分らしく伝えられたら

手紙には「人」を伝える力があります



一般社団法人
手紙文化振興協会
代表理事

むらかみかずこさん

平成25年に手紙文化振興協会を設立。企業研修や講演会、講座の開催等を通して、今の時代に合う手紙の書き方・楽しみ方や、成果につながる文章の書き方を、広く社会に発信しています。テレビ・ラジオの出演、新聞・雑誌への掲載も多数。飯館村では平成22年に、講座「女と男の関係をよくする一筆メッセージのこつ」で講師を務めていただきました。

声に出して言いにくいことも手紙にすると書けることがあります。私は子どもの時から手紙を書くのが好きだったので、それは振り返れば、口下手の反動だったように思います。困っていること、大事なことを、とつさに声に出すことに苦手意識がありました。書くことでなら、自分のペースで言葉を選べるし間違ったら書き直せる。私にとって手紙は、身近で自分を助けてくれる存在でした。

今の時代、手紙を受け取る機会も少なくなりました。その分、手書きすることそのものに価値があるのです。ですから、特別に長く書く必要はなくて、短くても「わざわざ私のために書いてく

「10年後への手紙」は、何を書いたら忘れてしまうほどの未来へ、思いを届けてくれます。文字が、時間を越えて、その人ならではの温かみや人柄を伝えてくれます。手紙にはそうした力があると思います。勇気を出して書いてみると、自分にとっても相手にとっても、きつとよいことがありますよ。